

平成 27 年度 第 1 回 モトクロス委員会議事録

【ダイジェスト版】

開催日：2015 年 7 月 16 日（木） 午前 10 時 30 分～午後 5 時
開催場所：MFJ 会議室（東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10F）

I. 2015 年度 全日本シリーズ前期状況報告（第 5 戦終了時点）

1. 全日本選手権シリーズ開催状況

全日本 IA・IB・レディースと併催承認チャイルドクロスの合計人数が、前年対比 92%と減少しているが、特にレディースクラスの減少(84.7%)が目立っている。

※第 5 戦神戸大会の入場者数を、中学生以下の無料入場者人数等も追加し集計した結果、12,000 人に訂正することが主催者から報告された。

2. 全日本選手権シリーズ暫定ランキングの確認 資料が提出され、確認された。

3. ライブリザルト新サービス「Check Lap」について

今年から、マックスブレイン社にて、web サイト(Check Lap)を立ち上げ、ライブリザルト配信サービスが開始されており、エントラント、チーム関係者がパドックで活用するだけでなく、観戦者が会場で順位を追う、会場に来れないファンがリアルタイムでリザルトを確認できる等好評であることが報告された。

※第 5 戦までのデータ ⇒ Hit 数 10,477,158 件(平均 2,095,432 件)、アクセス数 51,549 人(平均 10,310 人)

4. 近畿普及活動報告(神戸大会)

① 近畿モトクロス委員会 PR ブースを設置し普及活動を展開した。

近畿 MX 施設及びイベントの紹介、キッズバイク展示と撮影会、MFJ ライセンス会員パンフレット配布。

② Challenge ! Kids Bike の開催

辻本聡氏が講師を務めたキッズバイクの体験走行会が実施され、4 日(土)46 人、5 日(日)72 人と、予定数を大幅に上回る参加者を集めた。(講師:辻本聡氏)

5. 第 5 戦までの申し送り事項の報告

第 1 戦～第 5 戦までの申し送り事項が下記のとおり報告された。

MFJ モトクロス委員会「安全対策の指針」に基づき、第 5 戦までの全日本選手権シリーズについては、各主催者とも施策を理解し、対応して頂いている。後半戦の主催者に対しても同様に安全対策強化をお願いし、観客事故撲滅に協力が要請された。また、各地方選手権にも、この施策が波及するよう、改めて各地区委員長に各地区での対策強化も同時に依頼された。

6. 全日本選手権(第 5 戦まで)に関する意見・要望事項

① ピットサインエリアの数とエリア入場資格について

会場によって対応が異なると、人数等準備に支障をきたす可能性があることが説明され、ピットサインエリアの情報を事前に発信するよう要望された。MFJ 事務局より、第 2 戦以降から公式通知に明記することで、事前に公示されていることが説明された。

なお、2015 年開催会場においては、中国大会（グリーンパーク弘楽園）、近畿大会（名阪スポーツランド）は会場レイアウトの都合上 2 か所とするが、その他の全日本会場は全て原則 1 か所とすることが確認された。また、全日本大会各主催者は、ピットサインエリアの入退場口に専用係員を配置し、ピットクルー登録者の表示（ライセンスとパス）チェックを徹底することが要望された。

② ブルーフラッグについて

ブルーフラッグを提示されたライダーが走路を譲らない等のマナー問題が提起された。特に出走台数の多い IA2 クラスに多いと思われ、選手会ミーティングやライダーブリーフィングでブルーフラッグ提示時の走行マナーについて、注意を促すことが確認された。運営側においては、ブルーフラッグを提示する担当役員は、「指さし」等のジェスチャーでブルー対象がライダーに明確にわかるよう努力する。レースの戦況次第では上位者グループが中心となってしまうが、ライブリザルトを有効活用し、中盤にも提示ができるよう努力を要望する。

③ コースアウトからコースに復帰する際の安全確認について

現状規則では、「一時停止と安全確認」と明記されているが、「一時停止」の行為をしたかどうかは選手とコース役員の認識が異なる為、「一時停止」の表記を無くしたらどうかとの意見があったが、「安全確認」だけの表記の方が、より双方の見解が異なる可能性が高くなる恐れがあり、「一時停止」はあくまで安全確認の中のひとつの行為で、周囲のオフィシャルの判断もしやすい為、そのまま言文を残し、経過を観察する。

II. 2015 年度 地方選手権他、前期状況報告

1. 地方選手権シリーズ開催状況

6 月末現在の各地区開催状況表が提出され、確認された。

2. 2015 モトクロス全国大会開催概要の公示

11 月 7 日にスポーツランド SUGO で開催される「2015 モトクロス全国大会」の開催概要が MFJ オンラインマガジン <http://www.mfj.or.jp> にて公開されていることが報告された。

3. 特別競技会「NAGO オールスターモトクロス」の開催報告と来年度の実施について

今年 3 月 7 日に開催された「MFJ 特別競技会 NAGO オールスターモトクロス」実施報告がなされた。初開催ということもあり、IA (13 人) とレディース (11 人) とともに参加台数は少なかったものの、2 日間で 3,200 人もの観客が来場し、唯一ワークスで参加した Team HRC の所属選手によるサイン会等、大会は非常に盛り上がった。

2016 年については、3 月 6 日に第 2 回大会を開催要望が主催者である NPO 法人子ども安全運転振興会理事長の松田強氏から出されていることが報告された。メーカー各社代表委員に対し、同大会開催への協力（契約ライダーの出場支援や大会協賛等）が要請された。

4. 北海道の現況報告（ルスツオフロードスクール他）

6 月 21 日、ルスツ MX コースで北海道 MX・TR・ED 部会合同オフロードスクールが開催され、晴天の下、46 人の参加者が集まり、オフロード走行やスクールを満喫していたことが報告された。

（講師：武田善道氏、黒山健一選手、小林直樹氏）

① ルスツ MX コース …… 全道選手権やスクールなどが積極的に開催されているが、施設面でも開発段階である。

② 新千歳モーターランド …… 以前全日本も開催された HOP の経営体制が変るとともに施設名称も変更された。四輪のダートレースのノウハウをモトクロスに生かそうとする意識が強く、運営・管理スタッフも一新され、全道選手権をはじめ、まずモトクロス競技の経験

を養っている。

5. 選手会スクール報告

7月11日にいなべモーターランドで行われた選手会主催MXスクール報告が行われた。(参加台数62台)

◇ 講師:小島庸平選手、鈴木友也選手、道脇右京選手

◇ 参加者のレベル別グループに分け指導を行った。

◇ 次回は、10月の近畿選手権シリーズ(三木アネックスパーク)で予定されている。

また、11月7日SUGOで開催予定のMX全国大会の前日、全国大会参加者を対象としたスクール開催が要望され、選手会で検討することが確認された。

<意見>

- 特に若年層育成や地方選手権選手とのコミュニケーションをとる為にも有効な施策である。
- 現在参加無料としているが、永く継続させる為にも、最低限交通費等の必要経費は徴収すべき。

6. MFJライセンス登録状況報告

6月30日現在(前年同日比)のライセンスデータが提出され、確認された。

全体的には、106%と27年ぶりに増加。エンジョイライセンスは、金額設定の見直し等の施策の効果で132%の増加。エンデューロは、全日本(JEC)シリーズとエリア選手権の立ち上げでライセンス取得人口が増え124%の増加。ロードレースも102%の増加となった。

※モトクロスは、全体で96%のマイナスとなったものの、ジュニアとPCが増加し、北海道地区でのスクール実施や選手会スクールの開催効果が要因と推測される。本年度からライセンス講習会の申請料金を年額設定に変更し、実施しやすい環境に変化していることも有効活用して頂き、各地区でライセンス人口増加対策を展開してほしい。また神戸大会終了後、観戦者からライセンス取得に関する問い合わせがあったこと等の効果も報告された。【IA(91%)、IB(83%)、NA(90%)に対し、NB(100%)、ジュニア(103%)、PC(216%)】

Ⅲ. 2015 モトクロス・オブ・ネーションズ

7月3日(金)全日本MXシリーズ第5戦が開催された神戸特設会場にて、本年度モトクロス・オブ・ネーションズ日本代表チーム選手選考委員会が開催されたことが報告された。

◇ 大会日程 … 2015年9月27日(日)

◇ 開催会場 … Ernee(フランス)

◇ ノミネートライダー … 小方誠選手(TeamHRC)、小島庸平選手(TeamSUZUKI)、富田俊樹選手(TeamHRC)

◇ ノミネート監督 … 芹澤直樹氏(TeamHRC)

第5戦終了後、ノミネートされた監督ならびに選手の出場意思確認を行い、ノミネートされた監督と選手から受理の正式返答があったことが報告された。MXGPにIA1 暫定ランキングトップの小方誠選手、MXOPENに同2位の小島庸平選手、MX2に富田俊樹選手とし、芹澤直樹氏が日本代表チームの監督に就任される体制が承認された。第6戦東北大会でプレスカンファレンスを実施し、第7戦SUGO大会で壮行会を実施する予定であることが報告された。

Ⅳ. 2016 年度主要競技会暫定カレンダー

下記大会開催規希望日が提示され、状況が説明された。

1. 全日本選手権

◇ 九州(HSR九州)

4月3日 ※①

◇ 関東(オフロードビレッジ)	4 月 17 日	
◇ 中国(世羅グリーンパーク弘楽園)	5 月 15 日	※②
◇ SUGO(スポーツランド SUGO)	6 月 5 日	
◇ 中部(特設会場)	6 月 26 日または 8 月 28 日	※③
◇ 東北(藤沢スポーツランド)	7 月 17 日	
◇ スーパーモトクロス(未定)	6 月 26 日または 8 月 7 日	※④
◇ 近畿(名阪スポーツランド)	9 月 11 日	
◇ 関東(オフロードビレッジ)	10 月 2 日	※⑤
◇ MFJGP(スポーツランド SUGO)	10 月 23 日	

※① 4 月 10 日開催で提案されたが、次戦関東大会と連続開催となる為、日程移動が要望された。関東は同一地区内で翌週にトライアル世界選手権が予定されていることから移動することが不可能な為、九州大会を例年通りの第 1 週目で開催頂くこととなった。

※② MFJ 中国理事会で 5 月 22 日と報告されたが、例年通り 3 週目(5 月 15 日)とする。

※③ 会場は未定であるが、中部地区にて全日本 MX の開催に向け調整が進められることが報告された。

※④ スーパーモトクロスは来年も開催の意向で調整されているが、暫定として希望日程のみ報告された。

2. 特別競技会	NAGO オールスターモトクロス	3 月 6 日
3. モトクロス全国大会	世羅グリーンパーク弘楽園	8 月 21 日
4. モトクロス・オブ・ネーションズ	イタリア・マッジョーラ	9 月 25 日

<意見>

- 開催バランスも考え、適正なインターバルを置き、日程調整されるべきである。(8 月集中を避ける)
- 暫定であるが、夏場のレースが増えた場合、時間短縮など熱中症の対策を万全にする必要がある。
⇒ 現状も MFJ より主催者へ夏場の大会の熱中症対策準備の依頼と WBGT 計での競技中の気温管理は実施しており、継続して行う。
- 神戸大会終了後の空港や駅が泥などで汚れてしまった事例が報告され、各大会とも会場付近の施設への配慮なども考慮していくことが確認された。

※MX 選手会より提案

故馬場善人氏の追悼として集められた寄付金を馬場氏の遺族より、「次世代のモトクロスライダーの為に使ってほしい」との意向でモトクロス選手会に託されたことが報告された。

遺族の意向に沿って有効に活用させて頂く為の一つの方法として 11 月スポーツランド SUGO で開催される MX 全国大会で活用したいとの提案がなされ、参加選手へ特別賞として設定する等今後検討させて頂くこととなった。

V. 国内競技規則改訂案の審議

1. レディース選手会からの報告と要望

① レディース選手会の新体制について、報告された。

- 選手会長 … 畑尾樹璃選手
- 副会長 … 竹内優菜選手
- 会計 … 國部直美選手(事務局)
- メーカー代表 … 邵洋子選手(H)、本田七海選手(Y)、久保まな選手(S)、
神田橋芽選手(K)、油原愛悠選手(KTM)

② □MX 世界 GP タイ大会併催ウィメンズへの参戦

2015 年 3 月にタイで開催された世界選手権に 4 名が参戦したことにより貴重な経験となった。国内の技量格差などの課題も考慮し、世界基準も意識しながら、LMX 選手会として排気量やクラス設定などの観点で今後の全日本レディースクラスのビジョンについても検討して行きたいと考えている。

③ レディース選手会から、各大会主催者へオフィシャル(特にコース役員・救護員)が役務中に目を保護して頂く為にゴーグルが提供されたことが報告された。

④ 身障者への観戦環境改善要望

■ MX&LMX 選手会要望

全日本モトクロス選手権シリーズ全ての大会において、ご来場頂く身障者のお客様に対し、専用駐車場の設定、観戦場所の確保、付添者の入場無料策等について提案された。

<結論>

会場によっては対応が困難な場合もあるが、可能な限り主催者に努力してほしい。また、ロードレースや四輪レースを開催しているスポーツランド SUGO の対応も参考に聞き、全ての大会で身障者用駐車スペースは、必ず設定するよう対応する。万一駐車スペースが満車などの場合、お客様の状況をみて会場付近で乗降車を可能とし、付添者の方に一般駐車場へ移動して頂くなど、臨機応変に対応することとする。

⑤ 2016 レディースポスターカレンダーの販売を行う為、第 6 戦東北大会以降の全日本モトクロス各主催者に対し、販売スペースの提供や MC による告知などの協力が要請され、了承された。

2. 技術規則改訂について

① モトクロス国内仕様適用クラス (IB/NA/NB/J/LMX) におけるステアリングダンパーの追加

現規則で禁止されているステアリングダンパー非装着の MFJ 公認 MX 車両へ追加したいとの要望が技術委員会へ提案されたが、先にモトクロス委員会の現状と意向を確認し、再検討することとした。

<意見>

- 国内仕様の理念が「コスト抑制とイコールコンディション」であれば、車両公認時に装着されていない場合、認めるべきではない。
- 車両公認状態で取り付けられている状態でなければ、追加装着はリスクが大きい。
- 完成車時点で装着されている車両は、そのパーツを含めてテストされており、安全性に支障はないと判断ができる。しかし、追加される場合は、その製品自体の性能に影響を受けたり、選手の走行スタイルによっては危険につながる可能性も推測される。

<結論>

現状規則通り、公認時に装着されていない車両へのステアリングダンパーの追加装着は認めない。

※公認時に製造メーカーが車両に装着しているステアリングダンパーを社外品(車両メーカーキットパーツも含む)と交換・変更することはできない。

② モトクロス国内仕様適用クラス (IB/NA/NB/J/LMX) におけるフォークコーティング

MFJ 東北より、耐久性の向上による経費節減を目的とし、インナーチューブのコーティング及びアウターのアルマイト加工を認めるべきとの提案が出され審議された。

<意見>

- 本提案はあくまで補修行為であり、部品の追加や変更するものではない為、競技性に影響なく問題はない。
- コーティングする事により、部品の耐久性が向上し、結果的にユーザーにとってコスト抑制に繋がる。

- 無色コーティングは車検でも判別が付かないとの報告もある。

<結論>

モトクロス委員会としては、以下規則改訂を承認し、技術委員会にて最終審議を諮ることとする。
国内モトクロス技術仕様 7-2 (237 頁)「下記部品は一部において改造、変更が許可される」に以下追記。

【追加】

- ◇ 7-2-8 フロントフォークのインナーチューブ及びリヤサスペンションダンパーロッドへのコーティング加工
- ◇ 7-2-9 フロントフォークアウターチューブ及びリヤサスペンション外筒へのアルマイト処理

③ 50cc クラスの仕様 (チャイルドクロス B クラス) ハンドルバー規則改訂の提案

MX 賛助会企業より、チャイルドクロスにおいて、ハンドルバーが単体で交換できる車両に限り、体格に合わせて長さや太さが交換できるようハンドルバーの交換を認める規則改訂案が提案された。

(現状の 50cc 公認 MX 車両を例に挙げると、B クラス出場車両が該当する)

<意見>

- 特に性能の向上に繋がるものではなく、体格差により長さ・太さが選定できれば安全上も有効である
- ハンドルバー、スロットルスリーブだけでなく、スロットルワイヤーの交換も必要なのではないか

<結論>

モトクロス委員会としては、以下規則改訂を承認し、技術委員会にて最終審議を諮ることとする。
国内モトクロス技術仕様 付則 18-2「50cc クラスの仕様について」(240 頁)に以下を追記。

- ◇ 4-3 ハンドルグリップ (~~グリップ以外のハンドル部品の公認車両からの変更、改造は認められない~~)

【追加】

- ◇ 4-3-1 ハンドルバー単体で交換ができる構造の車両に限り、ハンドルバー、スロットルスリーブ、スロットルワイヤーの交換は認められる。

④ ハンドプロテクター

MFJ 北海道より、モトクロス技術規則にあるハンドプロテクターの仕様について確認が要望された。

※現状規則:226 頁 3-5-6 ハンドプロテクターが使用される場合には、非粉碎材質でなくてはならない。

<意見>

- ハンドプロテクターの使用は可能であるが、粉碎物質だけでなく金属製など硬質な材質のものは他選手との接触時に影響する恐れがある為使用不可とすべき。
- エンデューロに出場する選手が装着している事例も報告されている。
- FIM 規則では、ハンドルバーの先端に固定する仕様のプロテクターは使用できない。

<結論>

モトクロス委員会としては、以下規則改訂を承認し、技術委員会にて最終審議を諮ることとする。

【修正】

モトクロス基本仕様 3-5「ハンドルバー」

- ◇ 3-5-6 ハンドプロテクターが使用される場合、樹脂製で非粉碎物質であること。ハンドルバー先端に固定される形状のもの、ならびに金属材質のものは禁止とする。

⑤ フットレスト規則の改訂報告

今シーズン前に決定され、既に公示済の下記フットレスト規則改定事項について改めて報告された。

「危険防止のため、フットレスト先端の丸められている部分の R どまりの範囲(下図①)において、山の先端の R は 1mm 以上とし、その厚みは 1mm 以上とする。」



厚み 1mm 以上

⑥ その他

- ◇ チャイルドクロス規則にて、ビードストッパーの追加工について、現状のユーザー調査を実施した上で、次回に規則改訂案として提案を準備している。
- ◇ ゼッケンナンバーのデザインについて、文字が欠けたデザインやバックに模様が入っているデザインが存在するとの報告が全日本の車検から報告されており、実態調査の上、次回 MX 委員会の見解を統一したい。

3. 運営規則改訂提案

① 全日本公式練習中のスタート練習時間について (SUGO)

現状 3 分間で統一実施されている公式練習中のスタート練習時間であるが、会場によって異なる対応をとることを認めてほしいとの提案が出され、大会によって公式通知にて公示すれば時間は主催者によって変更することが認められた。なお提案者のスポーツランド SUGO で開催される大会は、第 7 戦(8/29-30)より、スタート練習時間を 2 分に変更する。

② 罰則項目の追加

ブリーフィング等で啓蒙は行われているが、黄旗&白旗無視について多く報告されていることから、参加選手に対する「規則遵守」の意識を徹底する為に、罰金を科す新たな罰則項目を「モトクロス競技規則 32 レース中の違反行為に対する罰則」(211 頁)に追加すべきとの提案が出され、下記を追記する事が決定された。

【追加】 … 「違反した場合、罰金が科される場合がある」

③ 抗議保証料の引き上げについて

<改訂提案理由>

昨今の動向を見ると、安易に抗議を上げる傾向が強い印象であるが、本来確信的な疑義に対し、あくまでスポーツとしての観点で手続きをすべきである。保証料を引き上げることで抗議提出に対しさらに慎重な意識を持てるのではないか。

<結論>

アマチュア選手も多く参加しており、誰もが疑義に対する主張を発言しやすい環境は、保持すべきとの観点から、現状通り、抗議保証料は 1 万円とすることが確認された。

④ IA クラスの T カー使用に関する統一解釈

IA のみ認められている T カー制度について、エントリー時点で登録した T カーは、事前に車検・音量測定を受けさえすれば、公式練習、予選ならびに決勝(ヒート I、ヒート II) にいつでも自由に乗り換えすることが可能か?とのエントリーからの問い合わせに対し、現状規則の表記だけでは明確でないことが指摘され、本会にて統一解釈が図られた。

<結論>

T カーの使用に関する統一解釈は、以下の通りとする。 ※2016 年度規則に追記

- ◇ 本番車とエントリー時に登録した T カーはすべて、車検と音量測定を受けなければならない。
- ◇ T カーはエントリー時に記載されたもの以外、後から追加することはできない。
- ◇ 公式練習中は車検と音量測定を受けた本番車と T カーは自由に使用することができる。
- ◇ 予選で使用する車両は 1 台のみとし、決勝では予選終了時点で使用した車両を使用しなければならない。

<車両変更の補足>

- ◇ 予選後に車両変更の必要が生じた場合、207 頁 18「車両の変更」に則り手続きすることができます。
- ◇ 「車両変更」とは車両自体をすべて差し替えることはできない。競技監督が認めた場合に限り、フレーム、エンジン、クランクケース(エンジンアッセンブリー含む)の変更は認められる。

⑤ MFJ 事務局提案事項 (実務ポイントの改訂等)

- a. 競技役員実務カードのポイントシステムの改訂について提案され、下記の通り決定した。

	審査委員/競技監督	各役務正副	各役務
全日本	15	10	5
地方以下	8	6	3

- b. パッケージ申請についての結論

前回委員会にて提案された、新規パッケージ申請時の1月~3月までのライセンス料金を無料としてほしいとの提案に対し、MFJ 事務局にて検討したが、システム変更が必要となる提案であり、変更に伴う経費を換算した結果、現状では不可能であるとの結論に至り、現状通りの対応とすることが確認された。

⑥ 負傷した選手の出走時の対応に関する統一解釈

- a. レーシングドクターが出走不可と診断した場合の取り扱いについて下記の通り確認された。

<当該大会における公式練習やレースで負傷したライダーが治療後に出走する場合の対応>

① 救護室で治療(受診)を受ける

- ⇒ ② 再検査が必要か否かをレーシングドクターが判断し、再検査が必要な選手の情報を救護から大会事務局に報告する。
- ⇒ ③ 再検査が必要とされた選手は、次レース出走前に救護室で再検査を受け、その結果を、出走可否に関わらず救護室から大会本部に報告する。(大会本部から競技監督以下へ伝達されるべき情報)
- ⇒ ④ 再検査でレーシングドクターから競技続行が不可と判断された場合または再検査を受けなかった場合、40 頁 14-2 に基づき、競技監督または大会本部事務局より当該選手へ出走不可を通告する。
- ⇒ ⑤ 再検査の通告を受けた選手の診察・治療にかかる時間はレース進行には一切考慮されない。

- b. メディカル部会より、脳震盪について

メディカル部会でまとめられた資料が提出され、外的損傷が見えない「脳震盪」は、競技役員だけでなく参加選手も知っておくべき知識であり、ロードレースではライダーのブリーフィング時に各施設のドクターから説明を行うなど啓蒙活動を行っている。モトクロスライダーへの啓蒙活動も今後必要であるが、MX 場にプロジェクターなどの設備が充実していない為、MFJ 事務局にて簡素化した資料を作成し、配布することが確認された。競技役員のみでなく全ての参加者が同じ情報を共有していくことが確認された。

- c. Go-Pro の取り扱いについて

MFJ は明確に禁止と謳っているものの、世界で対応が異なっており、今後の使用を認める可能性について問い合わせがあり、安全性が明確に認められない限り、MFJ での対応は現状通りとすることが確認された。

VI. 普及対策について

7-1 中部モトクロス委員長からの提案

- ① IA1 とIA2 を統合し、IAOPEN とする
- ② IAOPEN 化により、IA シード制度撤廃（17 決勝レース出場資格 17-1 を削除）
- ③ IAOPEN 化により、IA 年齢制限の撤廃（5 参加資格 5-3、5-4、5-5 を削除）
- ④ IAOPEN 化により、IA 指定ゼッケン番号規則の改訂（12 ゼッケンナンバー12-1-1）
- ⑤ IAOPEN 化により、観客の関心度を高める為ゼッケンカラーの改訂（3-14 ナンバープレート）
- ⑥ IAOPEN 化により、タイムスケジュールの見直しを図る
- ⑦ 全日本レディースクラスを 2 ヒート制とする（5 競技内容 9-3）
- ⑧ ジュニアクロスを全日本選手権対象クラスに認定し、全戦で開催（5 競技内容 9-3）
- ⑨ クラス呼称を観客にわかりやすく改訂（8 クラス名称と排気量区分）
- ⑩ MFJ モトクロス委員会の活動方針
 - a. 後継者の育成
 - b. 功労者の殿堂入りなどの対応
 - c. 競技会に対するメーカーからの支援の強化

※モトクロスを取り巻く環境は変わらず厳しい状況であり、上記提案以外にも対応すべく問題がまだまだある。

< 継続審議 >

本提案について、次回までに各委員が意見をまとめ、再審議とする。

7-2 モトクロス普及作業部会

2015 年 1 月 27 日に「平成 27 年度第 1 回モトクロス普及作業部会」が開催され、MFJ 加盟団体事務局ならびにスポーツランド SUGO 担当者が出席し、MFJ 本部事務局が策定した“普及対策(草案)”について説明され、以下事項が承認された。モトクロス委員会における承認について、審議された。

1) 安全対策について

モトクロス委員会でまとめた安全対策の指針を基に、全日本選手権シリーズ各大会で観客安全対策の強化が図られており、今後、地区モトクロス委員会ならびに加盟団体事務局を通じて各地区地方選手権シリーズや県大会に至るまで、観客への安全対策強化を徹底させていくことが承認され、協力が要請された。

2) 地方選手権構造改革(案) …… **決定事項ではありません!**

- ① 2016 年より、地方選手権シリーズの公認(昇格対象)クラスは、OPEN クラスに統合し各 2 ヒート制で全国統一する提案。
 - ◇ IBOPEN × 2 ヒート (20 分+1 周)
 - ◇ NAOPEN × 2 ヒート (15 分+1 周)
 - ◇ NBOPEN × 2 ヒート (10 分+1 周)
 - ◇ ジュニアクロス × 2 ヒート (10 分+1 周)

→ 草案では IBOPEN は全日本のみ開催とし、地方選手権では IB は開催しないとの提案だったが、普及作業部会にて地方選手権で開催すべきと決定された。
- ② 公認(昇格対象)クラスへの混走について、ポイントのかかる他の選手への配慮、事故発生防止などの観点から、公認クラスへ他クラスや無資格者の混走は禁止する。
(2015 年は参戦環境が無い為に地方選ジュニアクロスでもレディース選手の混走が認められていた)
- ③ 昇格ポイント対象外クラスの設定(=承認併催クラスも全国統一化を想定)提案
 - ◇ 「ジュニア 65」は、「OPEN65」とし、年少者をターゲットに MX ジュニアだけでなくエンジョイライセンスや PC ライセンスでも参加可能とするが、15 歳以下を条件とする。
 - ◇ レディース選手の練習やジュニアクロスライダーの育成(走行機会増加)を目的に「OPEN85」を設定し、エンジョイライセンス以上のライセンスで参加できる。

- ◇ 「チャイルドクロス」は MX ジュニア、PC、エンジョイライセンスで出場可とするが、小学校 3 年生以下を条件とし、これまで通り各地区地方選手権シリーズでランキング管理する。(MFJ 表彰式招待対象)
- ◇ 遊び志向の高齢者や初心者を受け皿とする「ナショナル OPEN」を設定し、モトクロス NA・NB ライセンス会員に遊べる環境を提供する。
- ◇ IA、IB の高齢カムバックユーザーをターゲットとし、「インターナショナル OPEN」の設定を提案したが、IBOPEN を地方選手権で開催することとなった為、タイスケに余裕があれば積極的に開催設定してほしいが、義務化はしない。
- ◇ 承認クラスにおいては、チャイルドクロスを除き、公認車両制度は適用外として問題無い。
※チャイルドクロスは全日本併催との兼ね合いで公認車両適用。

< 継続審議 >

地方選手権の事情が絡む為、モトクロス委員が、上記案を地元地区へ持ち帰り、意見をまとめる。次回までに地方選手権シリーズの改革案に対する各地区の意見をまとめ、再審議することとなった。

3) 全日本選手権運営効率化の施策

① 目的

全日本選手権シリーズのエントラントの窓口一本化による効率化と利便性向上、主催者業務負担軽減など、運営形態の改善を目指す。年間エントリーや年間パス発行については、選手会・メーカーから要望があり、MFJ 事務局にて検討するに至った。

② 施策(提案)

◇ WEB エントリー

SUGO 大会は SUGO 窓口、2015 年開催された SUGO 以外全ての全日本大会はビレックスが受付窓口となり、これまでの現金書留での受付方法に加え WEB エントリー手続き対応を実施している。

◇ シリーズ年間エントリー

以前、選手会とメーカーからあった要望に基づき、年間で出場する選手を対象にエントリー手続きを 1 回で済ませることを可能とする。※年間エントリー料の新規設定が必要。

◇ シリーズ全戦適用パスの販売・管理

年間エントリーのライダー、ピットクルーにシリーズ全戦で適用可能な統一パスを新規製作し、管理する。また、チーム関係者などへ販売も可能とする。

◇ シリーズ全戦適用パドックの販売・管理

車両メーカーのワークス・サテライト・PR ブースのパドックの管理。プライベーターへのパドック有料販売のシリーズ一括管理。

◇ シリーズ協賛窓口(プログラム・出店など)の一元管理

レーシングサービスなど、シリーズ全戦で協賛頂く企業やショップへのプログラム広告手配やスペース提供、副賞協賛などの一括管理。

③ 具体策(提案)

上記の業務窓口をシリーズで一元管理する為には、第三者機関(いわゆるプロモーター的な存在)にて管理する必要がある。第三者機関へ業務を集約し、管理体制を一元化する方法として、各方面からの協賛で得た収入を確保し、その内の一部を運営費用として捻出する方法について、説明された。

- 国内 4 車両メーカー …… 協賛金(案) 30 万円(1 大会あたり) ※パッケージ
シリーズ全戦パス 10 枚、パドックスペース全戦(ワークス・サテライト・PR)、大会プログラムカラー 1 ページ広告スペース
- シリーズ協賛 …… 協賛金(案) 15 万円(1 大会あたり) ※パッケージ
(国内 4 車両メーカー以外) シリーズ全戦パス 10 枚、パドックスペース全戦、

大会プログラムカラー1 ページ広告スペース

- シリーズパス …… (案)2 万円(1 枚あたり) ※誰でも購入可
- ライダー・PIT パス …… 年間エントリー手続き&支払い完了後にパスを手配。

※年間エントリー以外の各大会スポット参戦のライダー・PIT には、大会ごとの主催者がパス発行対応。
大会ごとのスポット協賛は、大会ごとの主催者が対応。

④ 効果

- ◇ 現状、チームスタッフやメーカーPR 担当など役務を主張し、膨大な枚数のパスを主催者へ要求するチームもあるとの報告を受けており、各社とも同ルールでパスの提供など対応できるようになる。
- ◇ 主催者は大会経営が赤字で成り立たない危機的状況を抱え、少しでも多くの協賛・支援に期待するしか継続開催する術が無い。現状曖昧なルールで適用されている部分を適正(有料化)に戻し、少しでも多くの収入確保につなげることができる。
- ◇ 年間でエントリーするライダーやスタッフ、レーシングサービスは、エントリー手続きや協賛申込みが一括管理となる為、手続きを 1 度で済ますことが可能となる。大会ごとのパスのやりとり等、煩雑な手続きが簡素化される。
- ◇ いつ、どこの大会でも窓口が一本化されれば、問い合わせも簡素化される。
- ◇ 特別会員や賛助会員やチャンピオンカード所持者は、あらかじめシリーズパスと交換を可能とすれば、ゲート係員のチェックする券種が大幅に削減され、ゲートのトラブルも減少する。

<意見>

- 車両メーカーより、各社とも豊富な予算で PR ブースなどの活動をしている状況ではない。
- 年間予算に組み込まなければならず、2016 年からは特に厳しい。場合によっては、全戦出店で確保している予算が有料化で不足となれば、全戦ではなく、スポットでしか出店できない可能性もある。
- 年間を通した窓口の一本化による、運営側、参加側の効率化を図ることは可能となる。
- 以前の様に、車両メーカーからもっと全日本各大会への支援をお願いしたい。予算を捻出してほしい。

<継続審議>

本提案について、次回までに各委員が意見をまとめ、再審議とする。予算ありきの提案の為、特に、メーカー代表委員は、予算の都合など各社の意見を次回までにまとめ、報告して頂く。

7-4 プレスの木田淑氏より、運営するファンサイト“MXing”に投稿された意見が報告された。

以上、17 時閉会

MFJ モトクロス委員長
田中 隆造